

(1) 野菜種子の消毒

1 農薬による種子消毒

防 除 法	備 考
<p>(1) イプロジオン水和剤（ロブラール水和剤）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニンジン 黒葉枯病 …種子重量の0.5%を粉衣する。 ・野菜類 アルタナリア菌による病害 …種子重量の0.5%を種子処理機により粉衣する。 <p>(2) イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤（ベルコート水和剤）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニンジン 黒葉枯病 …乾燥種子重量の0.5%を粉衣する。 <p>(3) オキシテトラサイクリン水和剤（マイコシールド）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キュウリ 斑点細菌病 …1500倍液に1～2時間浸漬する。 <p>(4) キャブタン水和剤（オーソサイド水和剤80）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トマト、ナス、ピーマン、キュウリ、メロン、スイカ、シロウリ、カボチャ 苗立枯病 …種子重量の0.2～0.4%を粉衣する。 ・未成熟トウモロコシ、野菜類（いも類を除く） ピシウム・リゾクトニア菌による病害（苗立枯病等） …種子重量の0.2～0.4%を種子処理機により粉衣する。 <p>(5) シアゾファミド水和剤（ランマンフロアブル）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エダマメ 茎疫病 …種子重量の2%の原液を塗抹する。 <p>(6) チアメトキサム・フルジオキシニル・メタラキシルM水和剤（クルーザーMAXX）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エダマメ アブラムシ類、タネバエ、ネキリムシ類、ハト・キジバト、フタスジヒメハムシ リゾクトニア根腐病、紫斑病、苗立枯病（ピシウム菌）、茎疫病、黒根腐病、白絹病 …乾燥種子1kg当たり原液8mLを塗抹する。 <p>(7) チウラム水和剤（キヒゲン）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エダマメ 紫斑病、タネバエ、ハト } …乾燥種子重量の1%を粉衣する。 ・トウモロコシ カラス、キジ、ハト } …乾燥種子1kg当たり原液20mL塗抹処理する。 <p>チウラム水和剤（キヒゲンR-2フロアブル）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エダマメ 苗立枯病、紫斑病、タネバエ ・トウモロコシ 苗立枯病、カラス、キジ、キジバト、スズメ、ハト、ムクドリ ・豆類（未成熟） ハト、カラス ・豆類（未成熟ただしエダマメを除く） 苗立枯病、タネバエ <p>(8) チウラム・チオファネートメチル水和剤（ホーマイ水和剤）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キュウリ つる割病 } …200倍液に30～60分間浸漬又は種子重量の0.5～1.0%を粉衣する。 ・苗立枯病 } …200倍液に20～30分間浸漬する。 ・ユウガオ（スイカ接木用） つる割病 …200倍液に20～30分間浸漬する。 ・トマト 萎凋病 …200倍液に20～30分間浸漬する。 ・豆類（未成熟） フザリウム・リゾクトニア菌による病害 …種子重量の0.5%を種子処理機により粉衣する。 ・野菜類（豆類（未成熟）を除く） フザリウム・リゾクトニア菌による病害（つる割病等） …種子重量の0.5%～1.0%を種子処理機により粉衣する。 <p>チウラム・チオファネートメチル水和剤（ホーマイコート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キュウリ 炭疽病 …種子重量の2～3%を粉衣する。 <p>(9) チウラム・ベノミル水和剤（ベンレートT水和剤20）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キュウリ つる割病、つる枯病、苗立枯病 …20倍液に30分間種子浸漬又は乾燥種子重量の0.4%を粉衣する。 ・トマト 萎凋病 …200倍液に30分間種子浸漬又は乾燥種子重量の0.4%を粉衣する。 ・スイカ、ユウガオ（スイカ接木用） つる割病 …乾燥種子重量の0.4%を粉衣する。 ・トウモロコシ 苗立枯病 …乾燥種子重量の0.5%を粉衣する。 ・カボチャ フザリウム立枯病 …乾燥種子重量の0.5%を粉衣（湿粉衣）する。 ・野菜類（豆類（種実）を除く） フザリウム・リゾクトニア菌による病害 …乾燥種子重量の0.4～0.5%を種子処理機により粉衣する。 <p>(10) トリフルミゾール水和剤（トリフミン水和剤）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カボチャ フザリウム立枯病 …種子重量の0.3%を粉衣（湿粉衣）する。 <p>(11) トルクロホスメチル水和剤（リゾレックス水和剤）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トマト、ナス、ピーマン、キュウリ、ホウレンソウ 苗立枯病（リゾクトニア菌） …種子重量の0.5%を粉衣する。 ・サヤエンドウ、実エンドウ 茎腐病 …種子重量の0.5%を粉衣する。 <p>(12) ベノミル水和剤（ベンレート水和剤）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミツバ 菌核病 …500倍液に24時間種子浸漬又は種子重量の0.5%を粉衣する。 ・トウモロコシ、野菜類 フザリウム菌による病害 …乾燥種子重量の0.16%を種子処理機により粉衣する。 <p>(13) ポリオキシシン水溶剤（ポリオキシシンAL水溶剤）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャベツ 黒すす病 …20倍液に10分間種子浸漬する。 <p>(14) メプロニル水和剤（バシタック水和剤75）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイコン、トマト、ミニトマト、キュウリ、スイカ 苗立枯病（リゾクトニア菌） …種子重量の0.4%を粉衣する。 ・ネギ 黒穂病 …乾燥種子重量の0.4%を粉衣する。 ・ホウレンソウ 苗立枯病（リゾクトニア菌） …200倍液1時間種子浸漬又は1000倍液に24時間浸漬又は種子重量の0.4%を粉衣する。 	<p>粉衣は乾燥種子を用いる。また、粉衣の際はマスクを必ず着用する。</p> <p>種子浸漬は、浸漬後水洗せず風乾してから播種する。</p> <p>湿粉衣は少量の水で湿らせた乾燥種子に薬剤を付着させ、風乾後に播種する。</p>

- ・野菜類 リゾクトニア菌による病害（苗立枯病等）
・・・乾燥種子重量の0.4%を種子処理機により粉衣する。
- (15) TPN 水和剤（ダコニール 1000）
- ・ニンジン 黒葉枯病 ……乾燥種子 1 kg 当たり 12 倍液 60mL を吹付け処理する（種子消毒機使用）。

2 温湯浸法による種子消毒例

作物名	病害名	処理条件 ※
トマト	萎凋病	55℃～60℃で 10～20 分
	半身萎凋病	45℃～50℃で 30 分
キュウリ	かいよう病	55℃で 25 分
	斑点細菌病	52℃～56℃で 10～20 分 又は 50℃で 10～30 分
	炭疽病	50℃で 20 分 又は 60℃で 15 分
スイカ	つる割病	55℃で 30 分
カボチャ	フザリウム立枯病	55℃で 15 分
ユウガオ	つる割病	55℃で 30 分 又は 57℃で 20 分 又は 60℃で 10 分 又は 69℃で 2 分
ダイコン	黒斑細菌病	50℃で 5 分
ハクサイ	黄化病	50℃で 20 分
キャベツ	根朽病	50℃で 5 分
	黒腐病	50℃で 30 分
	黒斑病	55℃で 10～25 分
	黒すす病	55℃で 10～25 分
	べと病	48℃～50℃で 20 分
カリフラワー	黒腐病	50℃で 30 分
ニンジン	斑点細菌病	50℃で 20 分
セルリー	葉枯病	48℃で 30 分
	斑点病	48℃で 30 分
ミツバ	立枯病	47℃で 10 分～20 分
トウモロコシ	倒伏細菌病	49℃で 10 分

※種子の状態や品種によって発芽障害を生じることがあるため、予備試験により発芽の状況を確認すること。
また、処理にあたっては温度、時間を厳密に制御し、処理後は直ちに広げ冷却するとともに風乾する。

3 乾熱消毒法による種子消毒例

作物名	病害名	処理条件 ※
トマト	萎凋病	40℃で 24 時間予備乾燥後、75℃で 7 日
	根腐萎凋病	萎凋病に準ずる。
	葉かび病	70℃で 2 日
	ToMV	70℃で 3～4 日
ピーマン	PMMOV	70℃で 3 日
キュウリ	黒星病	70℃で 2 日
	斑点細菌病	70℃で 3 日
	KGMMV	70℃で 2～6 日
メロン	つる割病	70℃で 3 日
	つる割病（レース 1, 2y）	75℃で 10 日
	CGMMV	70℃で 3 日
	えそ斑点病	70℃で 3 日
スイカ	炭疽病	70℃で 2 日
	CGMMV	70℃で 4～7 日
ユウガオ	つる割病	70℃で 4 日 又は 75℃で 6 日 又は 80℃で 5 日 又は 40℃で 24 時間予備乾燥後、75℃で 7 日
	CGMMV	70℃で 3 日
カボチャ	立枯病	75℃で 3 日
キャベツ	黒腐病	40℃で 24 時間予備乾燥後、75℃で 5～7 日
レタス	斑点細菌病	70℃で 1～4 日
	LMV	80℃で 3 日
カリフラワー	黒斑病	60℃で 120 分
ネギ	萎凋病	40℃で 24 時間予備乾燥後、80℃で 4 日
トウモロコシ	倒伏細菌病	50℃で 24 時間予備乾燥後、70℃で 7～10 日

※ 種子の状態や品種によって発芽障害を生じることがあるため、予備試験により発芽の状況を確認すること。
処理した種子を長期間貯蔵すると、発芽率が低下する場合がありますため注意する。
乾熱処理には乾熱滅菌器など専用の装置が必要である。